

ホームみつぎ完成間近

～住み慣れた町で安心できる生活を送る～

すだちの家 今川 陽平

4月1日の開所に向けて、尾道市御調町大田に障害者のグループホーム「ホームみつぎ」を建築中です。この事業は、令和元年度社会福祉施設等整備費補助金を受け、昨年10月から工事を開始しました。

グループホームは、障害のある方が必要な支援を受けながら自宅と同じような環境のもと共同で生活する場所です。御調町は尾道市の北部に位置し、市内中心部に比べ障害福祉サービスの提供施設が少ない地域です。そのため住み慣れた御調町内で安心して生活を続けたいという多数の利用者さんやご家族の強い願いから開設することが決まりました。また、整備地は町内中心地に近く商業施設や公共交通機関が充実し利便性の高い場所であることから、利用者さんの生活の質を高めることが期待されます。

利用予定の方から、「新しい建物で生活できることがわくわくする」また、保護者の方からは「親亡き後の子どもの生活にずっと不安を感じていた。町内に安心して預ける場所ができて良かった」というお言葉をいただきました。

利用者さんが安心して生活を続けられるためにも「ホームみつぎ」が地域に溶け込み、愛されるような場所になるよう運営を行っていきます。



▲「ホームみつぎ」完成予想図



▲西側外観

市役所に行ったら見てね!!

尾道市役所新庁舎の1階にあるコミュニティビジョンで、尾道さつき会の動画が流れています。

動画は15秒です。ぜひご覧ください。
(コミュニティビジョンとは公共施設に設置された広告媒体で、自治体からのお知らせや企業広告が同じディスプレイで放送されるものです。)



▲コミュニティビジョンに流れる動画の一部

さつき SATSUKI

第67号
令和2年3月

発行 社会福祉法人
尾道さつき会

広島県尾道市久保町1786番地
TEL (0848) 37-7272
FAX (0848) 37-9610
http://www.satukikai.com
E-mail:hoshinosato@satukikai.com

ユニークなボランティア論の授業 ～地域を巻き込んだ取り組み～

尾道福祉専門学校
重岡 秀和



▲避難先の検討をしている様子

▲カードを使つての疑似体験

尾道福祉専門学校では、ボランティアについての基本的な考え方を学ぶ授業としてボランティア論を1年生で学習しています。

毎月行っている資源回収では、学生たちが久保地域で実際にごみ出しを行い、大変さはもちろんのこと住民の方に「助かるよ」と声をかけていただくことで、地域貢献の一翼を担っていることを実感しています。

授業では、夜間に大地震が発生し施設に多くの人が避難してきたという想定で、カードを用いて、どこに避難してもらうかといった対応を決めるということ、尾道市危機管理担当の方の協力のもと疑似体験しました。また、折り紙で活動されている方を招いた時は、折り紙を通じて、人と人との関りにつながるということ学びました。

シネマ尾道の方を招いた時は、女性数人による活動で映画のまち尾道の灯を再燃させた話を聞きました。2001年に尾道から一度は映画館が消えましたが、その活動により2008年に開館することができたという内容でした。また、高齢者世代も楽しめる映画の紹介や、小さな映画館だからこそできる地域の特性に合わせた取り組みも紹介していただきました。

このように、地域で活動されているさまざまな方をお招きし、話を聞かせていただき学んでいます。ボランティアを学ぶということは、地域を知ること。地域を知ることとは、そこで生活されている人を知ることです。普段の生活の中でのボランティアだけでなく、災害時に必要なボランティアも学び、いつ・どんな時でも、地域の中で生活する人の暮らしを包括的に支えることのできる介護福祉士を目指して授業に取り組んでいます。

このように、地域で活動されているさまざまな方をお招きし、話を聞かせていただき学んでいます。

ボランティアを学ぶということは、地域を知ること。地域を知ることとは、そこで生活されている人を知ることです。普段の生活の中でのボランティアだけでなく、災害時に必要なボランティアも学び、いつ・どんな時でも、地域の中で生活する人の暮らしを包括的に支えることのできる介護福祉士を目指して授業に取り組んでいます。



▲習った折り紙での正月飾り

▲学生たちの折り紙作品

お詫びと訂正

さつき66号におきまして、誤りがございましたので、訂正させていただくとともにお詫び申し上げます

4ページ

尾道福祉専門学校
オープンキャンパス開催

誤 2020年3月24日(土)

正 2020年3月24日(火)

寄付者一覧

(2019年9月～2019年12月・順不同・敬称略)

- <寄付金> 医療法人ささき小児科医院 理事長 佐々木伸孝
Aコープカードサークル会員すだち会
尾道パイロットクラブ 会長 榎上恵美子 宮本美智子 三島一郎 匿名1名
- <寄付物品> 岩本光平 湯原鏡 匿名3名

編集後記

今年は例年になく暖かな冬となりましたが、いかがお過ごしですか？この勢いで桜も早く咲くのでしょうか…？最近では社会の変化もめまぐるしいですが、季節の変化も慌ただしいような気がします。
忙しい時期になりますが、よく食べよく寝て、笑顔で毎日を過ごそうと思います。 H.S

笑顔あり、涙ありの忘年会

地域密着型特別養護老人ホーム星の里 平田 杏奈

例年外部の方による催し物が主だった忘年会を、今回は初めて職員主体で行いました。入社1年目の職員3名が中心となって企画し、大奮闘の毎日でした。

メインイベントには入居者さん、ご家族、職員が全員参加できる“景品くじ引き大会”を企画しました。番号くじの入った風船を割る時は、会場全体から「よいしょー!」と掛け声があがりました。



▲一等賞おめでとうございます!

職員が小麦粉の中に顔を埋めて真っ白になりながら番号くじを探す場面では、ご家族から「いいぞー!」と応援の声が上がるなど、大いに盛り上がりました。一等賞が当たった入居者さんは歓喜のあまり「嬉しい。ありがとう」と号泣されていました。恒例行事である忘年会の企画を一から考えることはとても大変でしたが、「楽しかった!」という声や笑顔、思いが共有でき、責任をもって頑張ってきた職員一同ホッとした気持ちになりました。皆さんに楽しんでいただくためには自分たちも楽しむという今回の経験を、今後の入居者さんの生活支援に活かしていきます。



▲順位が決まる、運命の風船割り

日本でアルバイトを始めて8ヶ月、 林さんにインタビューをしました!

Q:尾道さつき会のイメージは?

A:大きい法人で、多くの職種が連携を取り、根拠を持って介護をしていると感じました。

Q:なぜ日本で福祉を学びたいと思ったのか?

A:いろいろな福祉先進国がある中で、北欧の社会と韓国では、考え方や法律が異なっています。日本は韓国と社会が似ており、福祉も進んでいるため日本で学びたいと思いました。

Q:学校生活はどうか?

A:言語の難しさや学校から出る課題が多くて大変なこともありますが、自分が学びたいことを学べているので、楽しいです。



▲楽しく働くことができます!

Q:将来どのような仕事がしたいですか?

A:できないことが増えてしまっても、その人の想いや考えに寄り添い、願いが実現できるような介護職員になりたいです。

Q:アルバイトを始めた時と心境に変化はありましたか?

A:当初は、知らない人ばかりで、環境の変化に戸惑いがありました。言葉が通じず、特に入居者さんが話をされる方言や日本の風習について聞きとることが難しく、コミュニケーションを取るのが大変でした。そんな時に、入居者さんから「いつも来てくれるから、来ないと寂しいよ」と声を掛けてもらい、嬉しく思いました。職員とも良い関係性を築くことができ、このまま働きたいという気持ちです。



▲インタビューを受ける林さん(右)

異業種から転職してきた職員や、福祉・医療系の学部外から入職してきた職員を紹介します。

シリーズ

JOY CHANGE たのしく転職

むかいしま作業所 芝原 史晃

Q1スポーツ系学部を卒業したそうですが、なぜ尾道さつき会で働こうと決めたのですか?

学生の頃は保健体育の教師を目指していましたが、特別支援学校の実習がきっかけで考えが変わりました。障害のある方と関わる中で「座右の銘は何ですか」「何で黒の服を着ているの」など、意外な角度からの質問が多くありました。関わりの中で「いろんなことが



▲利用者さんと散歩をする芝原さん

気になっているようだけど、どんな視点で物事を見ているのだろう」と興味をもったのが最初のきっかけでした。

尾道さつき会に決めたのは、両親の実家があることと、さまざまな事業所がある尾道さつき会で、色んなことを学べると思ったからです。

Q2就職して3年、今の気持ちはいかがですか?

まだまだ社会人としての自覚が足りないと思うこともあります。

最近では職員間で「業務を効率よく進め、利用者さんの支援をより良いものにするために、どうしたらいいか」などを話し合う場面が増えてきました。社会人としてまだまだ未熟な私を快く受け入れてくれている上司や同僚には感謝しています。



▲日帰り旅行でゴーカートを楽しむ芝原さん

Q3福祉の仕事へ入職や転職を考えている人に伝えたいことは?

支援をする仕事は楽しいことばかりではないですが、利用者さんが難しかったことを少しずつできるようになっていく様子や、何かを成し遂げた時の達成感、言葉にならないくらい嬉しいです。これは福祉の仕事ならではのやりがいだと感じています。利用者さんのために、日々いろいろなことを考えるのはとても楽しいです。きっと利用者さんと一緒に充実した時間が過ごせると思います。

ナオキング調査団4チューバー(TSS)で放映

～おのみち元気塾の活動にスポット～



総務課 川口 達也

2020年1月26日に放送された、ナオキング調査団4チューバーに、おのみち元気塾、特別養護老人ホーム星の里、デイサービスセンター星の里、星の里小規模多機能型居宅介護事業所が出演しました。

ナオキング調査団は、福祉・介護業界のホンネにナオキング(中島尚樹さん)と4人の調査団が迫る番組です。第4期のナオキング調査団4チューバーは、福祉・介護の魅力を発信する番組です。

当法人の施設が取材を受けた第2回目の放送では、「福祉・介護業界魅力的にイメチェン」というテーマに沿って、おのみち元気塾の活動をメインにスポットを当てていただきました。

放送内容をYouTubeで視聴することができます。また、過去にも当法人が出演したナオキング調査団Zやナオキング調査団3三ツ星も視聴することができますので、そちらも合わせてご覧ください。

恒例のクリスマスコンサート

デイサービスセンター星の里 岡野 明香

デイサービスセンター星の里では毎年12月にクリスマスコンサートを開催しています。2013年から始まり今年で7回目になりました。

尾道の音楽愛好家による「ドリームバンド」は、ピアノ、サックス、ドラムにボーカル(歌)という構成になっています。今年は、アンコールを含む全16曲を演奏してくださいました。最近の曲や懐メロ、童謡など知っている曲が多く、利用者さんは歌を口ずさんだり、手拍子を打ったりして楽しまれていました。

演奏会の終わりには「来年も楽しみにしているよ」と言われる利用者さんがたくさんおられ、デイサービスの利用者さんはすっかり「ドリームバンド」のファンになっていました。来年も開催予定なので興味がある方はぜひ聴きにきてください。



▲ドリームバンドの演奏の様子